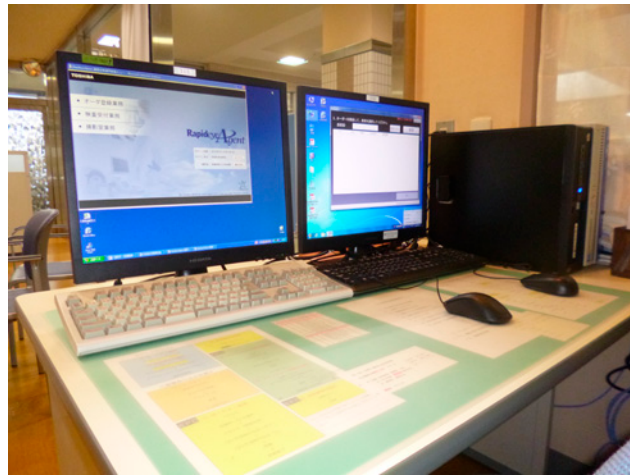


◎CD-Rの画像データ取り込み

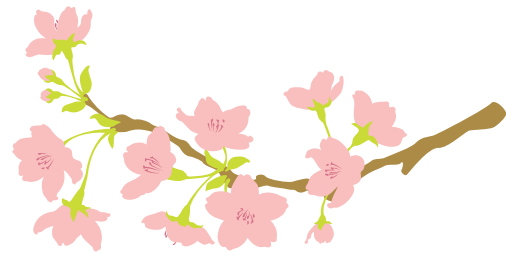
これまで、他機関から提供されたCD-Rの画像データは別のパソコンでしか表示されませんでした。院内オーダーリングのパソコンへの画像データ取り込みを開始しました。これにより、別途パソコンを立ち上げることなく、持ち運ぶことなく、院内オーダーリングのパソコンでどこでも表示できるようになりました。



◎旬の食材：たけのこ

たけのこは竹の地下茎から伸びた幼い芽で、旬は4～5月ですがまだ寒さの残るこの時期にたけのこを見かけますと春の訪れを感じます。栄養面では比較的ビタミンB2が多めです。柔らかい穂先は和え物や汁物に、中央は煮物や炊き込みご飯に、内側の柔らかい姫皮は吸い物の実など部位による使い分けでたけのこの風味や持ち味を生かすことができます。この時期には患者さんの食事にも「若竹煮」（かつおだしで香りよく煮て旬のわかめも添えた季節感あふれる料理）などの献立が登場します。

みなさんご家庭の食卓にも旬の食材を取り入れ、食事を楽しんで下さいね。



編集後記

あわただしい吹き去る風の中に暖かな春の息吹が感じられる季節となりました。年度末の時期ではありますが、春を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。旅先での温泉や、おいしい料理を堪能するのもよいと思います。また、車でいくより、たまには列車を利用し、家族みんなで非日常を楽しんではいかがでしょうか。列車乗り放題ができるお得なキップなどが発売されていますので、利用されたら安くあがるとおもいます。季節を感じる事の少ない現代だからこそ、身近な春を堪能したいものです。

交通アクセス

- JR鹿児島本線大牟田駅下車・・・徒歩20分
- 西鉄天神大牟田線大牟田駅下車・・・徒歩20分
- 九州自動車道南関ICより自動車・・・25分
- 西鉄バス大牟田駅前バス停乗車
天領校前下車（行先番号2番）・・・下車徒歩3分
天領町1丁目下車（行先番号4番）・・・下車徒歩0分



診療受付時間

月曜～金曜日 / 8:30～11:30 (診療開始 8:45～)
午後の診療時間についてはお問い合わせ下さい
土曜日 / 8:30～11:00 (診療開始 8:45～)

休診日

日曜日、祝祭日、年末年始 (12 / 30～1 / 3)

面会時間

平日・土日祝祭日 11時～20時まで



当院に対してご希望やご意見がございましたら職員にお気軽にお申し付けください。また、ご意見箱も是非ご利用ください。

一般社団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険 大牟田天領病院

〒836-8566 福岡県大牟田市天領町1丁目100番地
TEL 0944-54-8482 FAX 0944-52-2351
電子メール: somu@omutatenryo-hp.jp ホームページ: http://omutatenryo-hp.jp/

天領医療連携だより

Ohmuta Tenryo Hospital 2017.3



医療理念

- 一、患者中心の医療
- 二、医療の質の向上
- 三、地域社会にあった手づくりの医療
- 四、安心と信頼を持たれる病院づくり
- 五、経営の安定と職員満足度の向上

基本方針

- 一、地域の病院、診療所および介護施設と連携し、急性期医療を担当する中核病院として地域医療に貢献する。
- 二、患者さんに安心とくつろぎを与える医療と介護を提供する。
- 三、医療水準向上のため職員の教育および臨床研修を充実する。
- 四、経営基盤を安定させる。

◎リハビリテーション特集

News

当院のリハビリテーション科について、ご紹介いたします。

1 リハビリテーション科

リハビリテーション科が取扱う疾患は、整形外科、脳神経外科、神経内科を中心に呼吸器内科、呼吸器外科、外科、泌尿器科、腎臓内科、耳鼻科その他全ての診療科の疾患をその対象としています。

当院のリハビリテーション医療に携わるスタッフは、常勤医師1名、理学療法士22名、作業療法士12名、言語聴覚士4名、助手1名で構成され、理学療法・作業療法・言語聴覚部門は、脳血管疾患等リハビリテーション (I)、運動器疾患リハビリテーション (I)、呼吸器疾患リハビリテーション (I)、廃用症候群リハビリテーション (I)、がん患者リハビリテーションの承認を受け、施設基準を取得しています。

- ・理学療法分野は、物理療法、運動療法を組み合わせ、主に体幹・下肢における運動機能障害や日常生活動作障害の治療訓練、痛みの治療を実践しています。
- ・作業療法分野は、主に作業活動を通して上肢の機能回復や高次脳機能障害また精神面にアプローチを行い、その人にふさわしい日常生活動作改善を目的としています。
- ・言語聴覚療法分野では、言語訓練、構音訓練、摂食嚥下訓練、高次脳機能障害の訓練を主に行い、コミュニケーション能力の再獲得と摂食嚥下機能向上に重要な役割を果たしています。

当院リハビリテーション科は、回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟、通所リハビリテーション部門も含めて、超早期より回復期、生活期までの重要な時期のリハビリ訓練を担い、より早い社会復帰と地域社会への参加に貢献できるようスタッフ一丸となって日々努力をしています。



リハビリテーションセンター所長
渡邊 英夫

- 学会、専門医等
- ・リハビリテーション科専門医 (日本リハ医学会認定)
 - ・整形外科相談医 (日本整形外科学会認定)
 - ・日本運動器科学会名誉会員
 - ・日本リハ医学会認定指導責任者
 - ・日本整形外科学会名誉会員
 - ・佐賀医科大学名誉教授
 - ・研修指定等
 - ・日本リハビリテーション医学会研修施設

2 セラピスト部門

理学療法部門では、中枢・外科班、整形・呼吸器班、回復期リハ班、デイケアの4班に区分し、専門性を高めると共に、各病棟スタッフとの連携を深めることで患者さんの早期回復に努めています。

作業療法部門では、中枢班、整形班、回復期班、地域包括班、デイケアの複数班で構成し、急性期から維持期までに関わっております。また糖尿病教室や人工呼吸器回診、褥瘡回診、各種カンファレンスなどのチーム医療にも参加しております。

言語聴覚療法部門では、脳血管障害、交通事故などの頭部外傷や神経・筋疾患等の方を対象に言葉によるコミュニケーションの問題や、摂食・嚥下の問題に対し、機能の獲得や改善及び能力の回復・拡大を図り、より良い生活を送る事ができるように支援します。



3 回復期リハビリテーション病棟

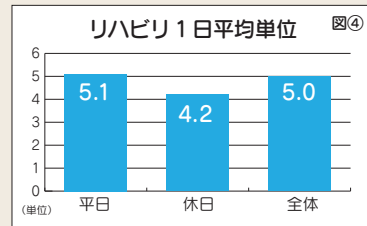
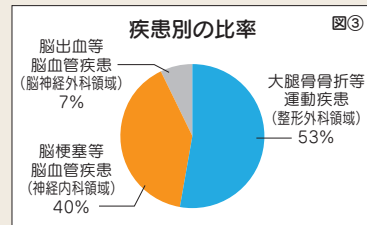
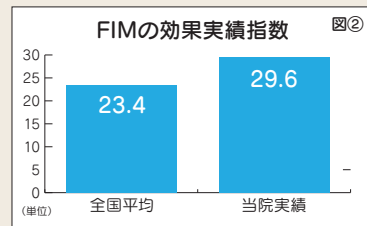
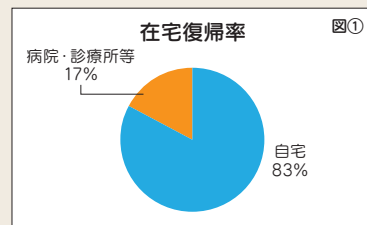
回復期リハビリテーション病棟とは、脳血管疾患患者または大腿骨頸部骨折等の患者に対して、ADL能力の向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的としたリハビリプログラムを医師、看護師、理学療法士、作業療法士等が共同して作成し、これに基づくリハビリテーションを集中的に行うための病棟です。

当院の回復期リハビリテーション病棟は、病床数40床、スタッフは医師1名、PT5名、OT3名、ST1名、ソーシャルワーカー1名、看護師16名、介護福祉士7名、看護助手2名で担当しています。また、病棟の目標として「退院支援に向けた他職種と連携」「在宅支援に向けた看護計画・介護計画の充実」「安全で安心できる入院生活の援助」を掲げ、毎日の勤務に取り組んでおります。

最近の回復期リハビリテーション病棟では、患者様の重症化・高齢化や求められるニーズの変化に伴い着替えやトイレ動作などの身の回りのことだけではなく、家事動作・趣味活動の再開などの応用的な課題も求められるようになってきています。これに伴い、退院計画を立案していく中での課題も非常に複雑かつ高度になりつつあります。そこで、これらの課題に対応すべく、在宅復帰を念頭に毎日のカンファレンスで退院計画を立案、確認、修正等を行っています。また、退院前訪問により生活に則したプログラムや自宅の環境調整等を行っています。

今後も患者様の在宅復帰に向けて病棟スタッフ全員で取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成28年(平成28年4月~12月)の在宅復帰率等の実績を紹介いたします。在宅復帰率は、平均83%で全国平均73%を上回っています。また、FIMの効果実績指数でも29.6点で、全国平均23.4点と比較すると高い実績になっています。

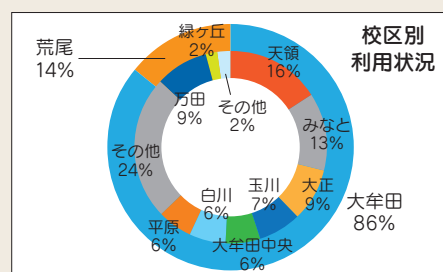


4 大牟田天領病院デイケアセンター

当事業所は、平成17年9月1日に開設し12年目を迎えております。昨年6月に法人名の変更に伴い7月1日より新事業所となりましたが、運営の中身に何ら変更はありません。

事業所の介護理念である『明るく家庭的な雰囲気重視し、利用者が「にこやかに」「個性豊かに」過ごすことが出来るようサービスを提供する。』を旨にスタッフ一同が協力しあって日々の業務を行っています。サービスの中でも特にリハビリテーションに力を入れており、専従の理学療法士を2名、作業療法士を1名配置しております。生活期のリハビリにおいては、ICF(国際生活機能分類)の理念に基づいていかに活動や社会参加の目標達成が出来るかが重要視されています。その事を踏まえたアプローチが上手く行えるように利用者の方の実際の生活場面である自宅の生活環境の把握が重要であると考えます。療法士による自宅訪問にて収集した情報をもとにプログラムを立案しますが、単に心身機能を向上させるためだけのリハビリではなくその方の要望を踏まえて生活の質が少しでも向上できるような内容のものを考えています。例えば、料理、買い物、自宅でも入浴ができる様になりたいなどの要望があれば、施設内の模擬訓練だけではなく、実際に自宅を訪問し状況を評価した上でアプローチを行ってまいります。その為にはケアマネジャーを中心にヘルパー、福祉用具レンタル業者等の方々と十分に連携を取りながら進めていくことを心掛けています。療法士がいつでも自宅訪問に伺える体制をしいておりますので各居宅介護支援事業所、介護サービス事業所の方には気軽にご相談いただければ幸いです。

平成28年(平成28年4月~12月)の校区別利用状況の実績を紹介いたします。



◎新任医師の紹介 | News



呼吸器科 部長 廣佐古 進 (ひろさこすすむ)

●学会、専門医等

- ・日本内科学会(認定内科医、総合内科専門医)・日本呼吸器学会(専門医、指導医)・日本集中治療医学会(専門医)
- ・日本アレルギー学会・日本救急医学会・日本呼吸療法医学会

平成28年12月に熊本から当院呼吸器科に参りました廣佐古と申します。珍しい名字ですが出身は福岡です。まだ当院での勤務が始まったばかりですが、歴史ある街の歴史ある病院で働く重みを感じております。加齢とともに呼吸器疾患は多くなりますので、地域の皆さんに私の専門分野で貢献できるよう努力いたします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◎タオル帽子の寄贈式

1月17日(火)に、西日本新聞エリアセンター(AC)連合会より西日本新聞創刊140周年記念事業の一環として、抗がん剤治療の副作用で髪を失ったがん患者の支援として「タオル帽子」を寄贈していただきました。また、このタオル帽子を製作していただいた方々には当院は以前から寄贈して頂いており、改めて地域の方々の支援や温かさを実感しました。

この地域の支援を職員一同で患者さんに伝えていこうと思います。今回は寄贈頂き、誠にありがとうございました。



◎平成28年度重症度・医療看護必要度について

1月30日(月)に、看護部看護必要度・記録委員会主催による、重症度・医療看護必要度研修を開催しました。参加者は114名で、各担当看護師より説明しました。

平成28年度の診療報酬改定により「重症度、医療・看護必要度」は、大幅な評価基準の改定が行われ、重症度、医療・看護必要度評価表の記入は、院内研修を受けたものを行うことになっており、研修の学びの中で、評価者としての意識も高まったのではないかと思います。



◎患者サービス向上委員会より

患者さんの声(アンケート)から、「トイレで基本伝票を入れるところがない」「肺機能検査の声が大きい」等があり、患者サービス向上委員会で検討した結果、「基本伝票入れ」と「肺機能検査の表示」を行いました。肺機能検査は、技師の声掛けに結果が左右されやすく、どうしても大きな声になってしまいます。

